

付録 J 節湯の効果係数

台所水栓における節湯の効果係数 f_{sk} 、浴室シャワー水栓における節湯の効果係数 f_{ss} 及び洗面水栓における節湯の効果係数 f_{sw} は、式(1a)～式(1c)のように表される。

$$f_{sk} = f_{sk,A} \times f_{sk,C} \quad (1a)$$

$$f_{ss} = f_{ss,A} \times f_{ss,B} \quad (1b)$$

$$f_{sw} = f_{sw,C} \quad (1c)$$

ここで、

- f_{sk} : 台所水栓における節湯の効果係数
- f_{ss} : 浴室シャワー水栓における節湯の効果係数
- f_{sw} : 洗面水栓における節湯の効果係数
- $f_{sk,A}$: 台所水栓における手元止水機構による節湯の効果係数
- $f_{sk,C}$: 台所水栓における水優先吐水機構による節湯の効果係数
- $f_{ss,A}$: 浴室シャワー水栓における手元止水機構による節湯の効果係数
- $f_{ss,B}$: 浴室シャワー水栓における小流量吐水機構による節湯の効果係数
- $f_{sw,C}$: 洗面水栓における水優先吐水機構による節湯の効果係数

であり、各係数の値を表 J.1 に定める。

表 J.1 節湯の効果係数の適用条件と値

分類	節湯の効果係数の種類	記号	適用条件	係数の値	
台所水栓	手元止水機能	$f_{sk,A}$	台所の水栓すべてが付録 K「節湯水栓の構造」により規定される「手元止水機構」を有する場合	0.91	
			上記以外	1.00	
	水優先吐水機能	$f_{sk,C}$	台所の水栓すべてが付録 K「節湯水栓の構造」により規定される「水優先吐水機構」を有する場合	日付 d における日平均給水温度 $\theta_{wtr,d}$ が 18℃より高い場合 日付 d における日平均給水温度 $\theta_{wtr,d}$ が 18℃以下の場合	0.70 1.00
			上記以外	1.00	
浴室シャワー水栓	手元止水機能	$f_{ss,A}$	浴室シャワーの水栓すべてが付録 K「節湯水栓の構造」により規定される「手元止水機構」を有する場合	0.80	
			上記以外	1.00	
	小流量吐水機能	$f_{ss,B}$	浴室シャワーの水栓すべてが付録 K「節湯水栓の構造」により規定される「小流量吐水機構」を有する場合	0.85	
			上記以外	1.00	
洗面水栓	水優先吐水機能	$f_{sw,C}$	洗面の水栓すべてが付録 K「節湯水栓の構造」により規定される「水優先吐水機構」を有する場合	日付 d における日平均給水温度 $\theta_{wtr,d}$ が 18℃より高い場合 日付 d における日平均給水温度 $\theta_{wtr,d}$ が 18℃以下の場合	0.70 1.00
			上記以外	1.00	

分類	節湯の効果 係数の種類	記号	適用条件	係数 の値
配管	ヘッダー分岐後の径	f_{sp}	ヘッダーにより台所水栓・シャワー水栓・洗面水栓に分岐され、かつ分岐後(分岐後の部分的な先分岐含む。)の配管すべての径が 13A 以下であるもの	0.95
			上記以外	1.00
浴槽	—	f_{sb}	すべての機器	1.00